

令和6年度 第1回千葉県博物館協議会 議事録

日時：令和6年8月2日（金） 午後1時30分～3時30分

会場：千葉県立中央博物館 会議室

出席者： 委員 高橋委員（議長）、関沢委員（副議長）、卯木委員、湯浅委員、鴻野委員、
細矢委員、綱島委員、門脇委員

博物館 美術館：貝塚館長、堀口研究員

中央博物館：稲村館長、田中副館長、小田島副館長

現代産業科学館：尾崎館長、森普及課長

関宿城博物館：糸原館長

房総のむら：岩崎館長、鎌形副館長兼事業課長

文化振興課 立和名副技監兼学芸振興室長、小野主幹、村田副主幹、宮川副主査
事務局 伊左治企画調整課長、石渡上席研究員、山本上席研究員

※ 配付資料確認【事務局】

- 1) 議事次第
- 2) 協議会委員名簿、出席者名簿、座席表
- 3) 議事資料 各館の令和6年度の活動について
千葉県立美術館活性化基本構想に基づく第1期実施計画 骨子案
千葉県立中央博物館 実施計画 骨子案

- 1 開会【事務局】：委員10名のうち8名の出席により会議成立。

傍聴者1名

- 2 あいさつ【中央博物館：稲村館長】
- 3 出席委員自己紹介
- 3 出席職員自己紹介
- 4 議事（別紙参照）
- 5 諸連絡【事務局】
- 6 閉会【事務局】

(別紙)

【議事】

(1)：各館の令和6年度の活動について

【高橋議長】

本日も先生方のご専門、ご専門を離れた立場から活発な議論をお願いいたします。

議事1「各館の令和6年度の活動について」、各館よりご説明いただきます。

ではまず美術館から説明をお願いします。

【美術館】

4月、西千葉に本社があるファッションメーカーZOZOと美術館のコレクションのコラボレーションを行っております。7月13日からは開館50周年記念特別展として五十嵐靖晃さんの作品を展示した「海風」を開催しております。地域連携・住民参加型の展覧会となっております。屋外展示もあり、暑い日が続いているなかで来場をお勧めするのは憚られる状況ですが、金曜・土曜と、祝日の前日は午後7時半まで開館しておりますので、ぜひ時間帯を選んでご来館いただければと思います。9月の終わりから10月にかけては、美術館設立に貢献いただいた県美術会の公募展を例年どおり開催します。今年は開館50周年ということで、今までとは異なるプログラムも用意されています。10月の終わりから来年1月の半ばにかけて、開館前から力を入れている浅井忠に関して特別展を開催します。名作展というよりは浅井忠の様々な側面に焦点を当てた展覧会となる予定です。また、その会期冒頭にあたりますが開館50周年の式典を行うべく準備を進めています。1月からはコレクションのなかから、当館が選ぶベストセレクションの展示、これぞ千葉県立美術館というものをご覧いただきたいと思っております。昨年度末に「千葉県立美術館活性化基本構想」を策定いたしました。この基本構想に沿った活動の1年目、かつ開館50周年、その両者を合わせた美術館のいまの姿をお見せしたいと思っております。

【細矢委員】

特別展「浅井忠、あちこちに行く」のなかでデジタルアーカイブ化して日記を公開するとありますが、どのようなものになるのでしょうか。

【美術館】

当館は、遺族との長年のお付き合いがあり、作品以外にも資料も数多く収蔵しています。浅井忠宛てに他の作家や知人から送られてきたはがきであったり、浅井の日記があります。これらは展覧会でもご覧いただくのですが、日記は冊子となっているので全部を一度に展示

できるわけではありません。オンラインで全ページを見ていただきたいと思っています。デジタル化を取り組むにあたり、課題も多いのですが、そういった課題が具体的に見えてきたことは、館にとってもメリットであると思います。

【細矢委員】

特に肉筆であると読みにくいことが多いので、解説部分が充実するとわかりやすいデジタルアーカイブになるのではないかと思います。

【高橋議長】

現在開催中の「海風」は、かなり野外の展示がメインの印象を受けるのですが、暑さ対策はどのようにされているのでしょうか。

【美術館】

屋外で24時間見ることができる場所もあります。時間帯を選んで、屋内施設も活用しながら自己責任で見ていただくしかないと思います。また、当館はどなたでも利用できるクーリングスポットにも指定されていますので、暑い日中に涼む場所として当館を利用いただき、地域の活性化につながるようなことを期待しています。

【高橋議長】

美術館の夏の展示は毎年面白いので、非常に期待しており、足を運びたいと思います。

【綱島委員】

9月8日に千葉みなと・さんばしまつりが開催されますが、海沿いの展示はそのときも設定されているのでしょうか。

【美術館】

8日の日没までは設置されています。

【文化振興課】

今回のこの展示は、さんばしまつりともタイアップしています。

【綱島委員】

さんばしまつりは、昨年も暑いなかでしたが、3万人ぐらいの人が来られていたので、県立美術館をPRする絶好の機会だと思います。良い企画ですので、これを機に認知が広がると良いと思いました。

【鴻野委員】

今回の展覧会は、とても多くの方が作品制作に携われたと伺っていますが、どのような反応がありましたでしょうか。

【美術館】

近くの小学校やショッピングモール、勝浦市での県 150 周年記念イベント等々で、様々な方に展覧会の主旨をお話しして参加いただきました。美術館での作業に具体的に参加いただく方もいれば、自分の作った展示物を遠くから送るかたちで参加される方もいました。このプロジェクト自体、全体がひとつの作品です。作品づくりに限らず、裏方的な仕事で参加された方、広報的役割を担った方、その他様々な方々とコミュニケーションをとり、物を動かす方もいて、それらすべてをひっくるめて作品の一部と思っています。単純に何人とは言えないほどの様々な方々に関わるプロジェクトでした。

【高橋議長】

次に、中央博物館から説明をお願いします。

【中央博物館】

まずは令和 6 年度の展示から説明させていただきます。すでに終了しておりますが「発掘された日本列島 2024」を 6 月 8 日から 7 月 15 日まで文化庁合同特別展示として開催しました。続いて特別展「万祝博覧会～海をまとう」が現在開催中で 9 月 29 日までとなっております。7 月 27 日のオープニングイベントには、知事にもご参加いただき、学生やチーバくんが万祝を着用した「万祝ファッションショー」を行いました。この万祝博覧会では、県外も含め各地の万祝が一堂に会してご覧いただけます。続いて、10 月 12 日からは、植物画家二口善雄の当館コレクションと作品制作風景や作品が掲載された図鑑などを合わせて展示する秋の展示「二口善雄植物画展」、2 月からの春の展示は都市のなかに作られた生態園の 35 年の変遷とそれを調べ続ける様々な専門分野の연구원たちの活動にスポットを当てた「房総のミニチュア生態園」を開催します。またトピックス展として 10 月に「近代文学を支えた寺田憲とその周辺」、2 月に「発見された江戸時代の小絵馬～小絵馬の習俗～」、またそのほか、千葉県教育振興財団設立 50 周年記念展として「地中からのメッセージ」を開催します。

当館の研究成果の一例として、「銚子市で市民が採集した岩石から世界初・バレミアン期の海水魚類の耳石化石を発見！」を報告させていただきます。これは銚子市民によって採集、寄贈されて当館収蔵庫に保管されていた岩石から魚の耳石化石が発見されたもので、博物館における保管研究機能の重要性と市民による自然誌標本の収集活動の重要性を改めて示すものです。

最後に国立歴史民俗博物館との包括連携協定について報告させていただきます。令和 6 年 4 月 26 日に、広報戦略を強化し歴博の認知度向上のため、歴博館長と千葉県の間で包括協定を締結しました。中央博物館は平成 23 年から博物館活動に関する協定を締結しており、今後とも研究・展示活動等において歴博と協力してまいりたいと思います。歴博との連携を深め、博物館活動の推進に関することはもとより、千葉県の魅力を国内外に発信し、心豊かな県民生活の実現と地域社会の発展につなげたいと考えております。

【湯浅委員】

歴博との包括連携協定の締結について、本年 4 月ということもあり、まだ走り始めたばかりとは思いますが、具体的にはどのようなことをお考えなのでしょうか。歴博と中央博物館どちらも歴史展示をもつ博物館として、県内で有数の博物館だと思うのですが、具体的な展示の連携などといったものをお考えでしょうか。

【中央博物館】

詳細は、次の議題 2 でお話ししますが、展示に伴う調査研究から連携を深め、その展示の開催を予定しています。

【文化振興課】

今回の協定は、これまで中央博物館と国立歴史民俗博物館の館同士であったものを千葉県に範囲を広げたもので、すべての県立館も対象となっています。県も文化振興課だけでなく、広報課や観光課といったメンバーを加えて、どういったことができるか検討しているところです。

【高橋議長】

歴博は、工芸品なども多く所蔵していたかと思うので、美術品などで美術館との連携など、活動が広がっていくことを期待します。

【門協委員】

本日、会議前に万祝の展示を拝見させていただきました。ミュージアムショップに万祝のグッズがありましたが、あれは自主事業ですか、それとも委託販売のものですか。

【文化振興課】

独自に開発し、お願いして作成したものです。

【門協委員】

それらのグッズは売れた方が良いと思うのですが、陳列等に問題があると感じました。たとえばTシャツも柄が複数あるにもかかわらず1種類しか飾られていないので、すべてのデザインのを飾るとか。いろいろなグッズが並んでいるが実物がほとんど見えないので、サンプル品と商品の説明・使い方を置くとか。また並べ方として、通常商品との差別化して、企画展の特別な雰囲気を出した方が良いと思いますし、出口からも見えるように配置する方が良いと思います。万祝は絵的に美しく、グッズは売れると思うので、もったいないと思います。

【中央博物館】

アドバイス、ありがとうございます。

【鴻野委員】

万祝の展示会のカタログですが、以前千葉の芸術祭の関係で万祝について調べなければならなかったのですが、万祝に関する書籍がほとんど出ておらず、なかなか手に入りにくいものばかりでしたが、このような立派なカタログが出たことは大変喜ばしいと思いました。

【細矢委員】

国立歴史民俗博物館と連携することで、ぜひ発展的な活動に期待したいと思います。一方で、中央博物館は総合博物館ですので、自然科学系のイベントがかなりありますよね。少年少女はそういった部分に引き付けられるところも多いと思うので、ぜひそちらも力を抜かずに行っていただければと思います。

【高橋議長】

十月からの二口善雄植物画展ですが、最近、植物画に興味をもって描かれる方がけっこういらっしゃるようですので、美術系に興味をお持ちの方にも広がっていくとよいと思います。それでは、次に現代産業科学館にお願いいたします。

【現代産業科学館】

現代産業科学館の主要事業として、4つの事業について説明いたします。当館は誰もが産業に応用された科学技術を体験的に学ぶことができる博物館として、平成6年6月に開館いたしました。今年が開館から30年となる記念の年ということで、開館30周年記念イベントを6月14日から30日まで実施いたしました。知事ご臨席の記念セレモニーのほか、30周年記念展示として、これまでに開催した企画展・特別展のポスターや収蔵資料により当館の歩みを紹介いたしました。また、今年度の秋の企画展のテーマが「見る」ということで、先行して一部をプレ展示いたしました。参加型のイベントとしてT型フォードの記念撮影

会やこどもわくわく工作教室を実施しました。次にプラネタリウム上映会です。平成18年度から始まり、当館の夏の恒例行事となっています。今年度は、8月9日から8月29日までの20日間で実施いたします。1日の上映回数は5回で、8月23日から25日は、上映回数は変わりませんが、開館時間を延長して実施します。今年度は「あなたの好きな星空を見つけにいきませんか」をコンセプトとして、これまで上映した作品のなかから好評だった3作品を選び、これまでの上映会の歩みを感じることでできるプログラムとなっています。さらに8月17日と18日は、プラネタリウム製作者の大平氏の生解説も併せて行います。また、同時開催として大平氏が開発した投影機・メガスターの開発ヒストリーと最新の投影技術を紹介する展示もドームギャラリーで行います。県が推進する産業教育と職業教育の一環として、プラネタリウム開発者がその苦労や喜びについて中高生と直接対話する事業も併せて開催することとしています。次に「これでわかった未来の技術」ですが、企業・大学等に展示運営協力会として現代産業科学館の運営に協力いただいております。毎年8月に展示会やサイエンスショー、実験工作教室を実施しております。今年度は8月10日から8月25日までの期間で開催します。最後に今年度の企画展「見るー生き物の目・機械の目ー」についてご説明いたします。生き物の視覚システムは目から入った膨大な情報を取捨選択したり、過去の経験から推測したりすることに意識が伴います。一方機械のシステムはレンズから取り得た情報を変換処理し、人の目には見えないものも映し出すことができます。さらに最近ではAIの登場により機械もまるで人のように複雑な認知が可能になってきています。そういった視点から、今回の展示では、人の立体錯視、イカなどの海の生き物の見ている世界、高速カメラや電子顕微鏡のシステム、災害救助の現場での人と機械AIの視覚共有システムなど、様々な視点から「見る」を紹介したいと考えています。開催期間は10月12日から12月1日までの44日間を予定しています。このほか、この期間に地域連携事業として隣接する市川市の図書館に「見る」に関する絵本の読み聞かせ会を開催していただくことになっており、関係機関の相乗効果を狙う取り組みも行うこととしております。

【高橋議長】

展示運営協力会の展示があるとのことですが、具体的にどのような企業が来られているのでしょうか。

【現代産業科学館】

たとえば企業様でいうとサイエンスショーで出光興産やキッコーマン、財団の関係だとかずさDNA研究所、大学関係だと千葉工業大学などにご協力いただいております。

【関沢委員】

プラネタリウムや未来の技術で、大勢の方々が見に来てくださるということに非常に驚きました。科学というと男子学生が科学の道に進む傾向があると思うのですが、科学の道に進

む女子、いわゆる理系女子を育てることが話題になっています。来館者は家族連れも多いかと思いますが、その男女比はどのような感じでしょうか。

【現代産業科学館】

男女比はわかりませんが、昨年度の実績として、年間で13万人の来館者があり、その比率は乳幼児が1万5千、小中学生が2万6千、高校生大学生が1400人、それ以外の8万7千人の方は大人の方・保護者の方となります。親子連れの来館者が非常に多く、小さなお子さんがかなり主体となっております。課題としては、ご指摘のあったように中高生にもっと興味をもって来館いただきたいと思っており、今回のプラネタリウムで企業さんと高校生との意見交換の機会を設けたように、科学技術・産業技術に興味をもってもらう機会をつくってPRしていきたいと考えております。

【文化振興課】

私どもが現代産業科学館にお手伝いに行ったときの感覚ですが、とくに男女比に差があるようなイメージはもちませんでした。大平技研にプラネタリウムをお願いしてもう20年近くなるのですが、当時小学生でプラネタリウムをはじめて見て感動し、大平技研に入社した女の子もいて、確実に育っている部分もあると思います。

【関沢委員】

とても大事なことだと思っています。

【卯木委員】

千葉県の子ども会としての企画はないのですが、千葉県の市町村の各地域の子ども会活動のなかで、博物館などに行く計画は、その子ども会の会長さんが計画するので、私からも施設のPRを行い、利用を広げていきたいと思えます。

【高橋議長】

おそらく下から積み上げていかなければ、上は増えていかないと思いますので、よろしくお願いします。

【文化振興課】

世代の問題について、今年度初めて、美術館で高校生・大学生は夏からの展示入館を無料にしております。SNSでの発信やアンケートへの回答のような限定付きのものではありますが、初めての試みとして美術館でまず始めさせていただいております。

【高橋議長】

なかなか面白い企画だと思います。うまくいくことを願っております。
それでは、次に関宿城博物館、お願いいたします。

【関宿城博物館】

関宿城博物館は、利根川から江戸川が分流するまさしくその先端に位置しており、この二つの川と関宿をメインテーマとした博物館です。今年は、江戸時代末に赤松宗旦によって作られた利根川図志の世界を紹介する展示を秋のメインイベントとしております。夏から、利根川の源流から銚子までの写真をパネル展でまず紹介し、利根川流域の観光地なども紹介しながら、気分を高めており、秋の利根川図志の展示につなげていきたいと思っております。利根川図志は、江戸時代末に利根川の素晴らしい景観が変わってしまうのではないかとという問題意識のなかで赤松宗旦によって作られたと思っております。利根川図志の中には、植物の絵、河童の絵、当時のお祭りの絵、素晴らしい景観の絵など、様々な優れた絵が掲載されています。当時の江戸時代末の利根川流域、今では見ることができなくなってしまったかつての利根川の流域の世界を、お客様に存分に味わっていただくとともに、利根川図志が作られた経緯なども紹介し、当館の目の前を流れる川を過去と現在とを行き来しながら見ていただけるような企画展を準備しております。次に普及事業ですが、博物館セミナーとして毎年7回程度、利根川・江戸川流域の歴史・民俗・自然について、当館の7名の調査研究員の先生方に専門分野でのお話をさせていただいております。たとえば8月18日には、日本でも数少ない和船・日本の木造船の専門家である松井哲洋先生に講演いただきますが、実物同様の工法で作られた利根川の高瀬舟の模型と江戸湾の五大力舟の模型を、プールに浮かべて、船の構造や川の船と海の船の違いを説明いただく予定になっています。以上のように、当館は川と関宿にこだわって、展示事業、普及事業を行っております。

【湯浅委員】

私の記憶のなかで、赤松宗旦と利根川図志をテーマにした企画展は今までなかったのではないかと思いますので、たいへん素晴らしい企画だと思いますし、期待しております。いくつかご質問させていただきます。一点目は、この企画展は赤松の生誕とか、利根川図志に関わるモニュメントなどと絡んでいるのでしょうか。二点目は、博物館の調査・研究を紹介する企画展と銘打たれていますが、何か新たな、目玉となるような研究成果があるのでしょうか。三点目は、10月20日に歴史散歩を企画されていますが、布川はかなり遠く大変かと思うのですが、現在の想定範囲で構いませんので、どのようなかたちで行うのか教えてください。

【関宿城博物館】

一点目、何か記念年というようなものは特にございません。来年の柳田国男生誕などにも絡んではおりません。当館の学芸は3名で、その3名が順番に企画展を回しているのです、順番

的に今年が民俗であったという内部の事情です。二点目の研究成果ですが、新発見的なものはありませんが、今までの研究成果をまとめ、資料もお借りしながら、それらをわかりやすく提示して、利根川に接した当館で見えていただくところがポイントとっております。三点目について、当然布川の行程も考えてみたのですが、やはりトイレ等の問題などもあり難しいというのが結論でした。いろいろ実際に歩いた結果、成田の新勝寺で行います。いつもの新勝寺の散歩とは異なる利根川図志の散歩となるよう、学芸職員も頑張っております。

【湯浅委員】

柳田の名前が出ましたが、岩波文庫の利根川図志の序文を書いていたのが、たしか柳田だったと思いますので、いろいろな意味でご期待申し上げます。

【細矢委員】

学校関連事業に教員のための博物館利用研修会というのがありますが、これは教員を招いて実際一つ一つ見てもらい、それを教育に利用するというような主旨と違って間違いありませんか。以前からやってらっしゃることですか。

【関宿城博物館】

各県立博物館でも以前からやっており、当館も行っております。昨年、今年と、地元の周辺市町村の新任の先生の研修会として当館に来ていただいております。ただ教員のための研修会といっても、なかなか来てはいただけではない状況ですが、人数は少なくとも、うちの学芸とほぼマンツーマンでじっくりと行っています。先生の研修という反面、いかに学校で博物館を使ってもらえるのかと情報収集する面もかなり色濃いと思います。当館にとっても貴重な機会ですので、継続して行うべきこととっております。

【細矢委員】

学校の先生もやはり一度も見ないで教えるのと、実感をもって教えられるのでは、生徒に対する発信力や生徒の食いつきもかなり違うと思います。手間かもしれませんが、ぜひ継続してもらいたいと思います。

【高橋議長】

それでは、続いて房総のむらからお願いいたします。

【房総のむら】

令和6年度の活動内容について、四季折々の展示や実演、体験演目等を資料に沿ってご説明いたします。初めにむらの歳時記ですが、県内各地で行われている季節ごとの行事や風習を館内の各所で再現しています。5月の端午の節句や7月の七夕などのほか、今ではあまりな

じみのないものも再現しております。続いてまつりですが、季節に合わせ、春のまつりやむらの正月など、年6回開催しています。明日8月3日・4日の二日間は「むらの縁日・夕涼み」として、開館時間を午後7時30分まで延長し、涼むをテーマに縁日のにぎわいや夕涼みの雰囲気を楽しんでいただきたいと思います。続きまして展覧会ですが、学芸員の日頃の調査研究の成果として、企画展やトピックス展を風土記の丘資料館の展示室において開催いたします。企画展として12月7日から2月2日まで、地域に生きる醤油づくりを、トピックス展として2月22日から4月20日まで房総の牧を開催するほか、すでに開催済みですが千葉県誕生150周年のあゆみをパネルにして展示する写真でみるちばのあゆみ写真巡回展、そのほか千葉県教育振興財団設立50周年記念展として地中からのメッセージ～旧石器・縄文・弥生～を開催いたします。次に風土記の丘資料館ですが、展示資料に関連した内容の考古学講座を年4回開催します。8月25日には、「埼玉古墳群からみた東国の古墳文化」をテーマにご講演いただく予定です。次に観察会等ですが、当館の敷地内に広がる豊かな自然を活用した里山観察会や野鳥観察会を年5回開催します。次に体験演目ですが、昔あそびや千代紙ろうそくなどの団体系験、職人や館職員からわざの指導を受けながら体験するわざ指南道場、わら細工コースや竹細工コース、蹴ろくろコースなど、1か月から1年かけて、より高度な技術を習得するむらの達人講座がございます。また農家体験は、上総・下総・安房の各農家において、炭焼きなどの季節に合わせた体験のほか70種類ほどの演目を実施し、武家体験は、佐倉藩の中級武士の家を再現した武家屋敷にて、茶の湯体験や甲冑の試着など、武士やその家族が習得した稽古事などを体験できる演目を実施します。商家体験は、16棟の商家において、それぞれの商家の特徴を生かした150種類ほどの演目を実施いたします。風土記体験では、令和5年4月にリニューアルオープンした風土記の丘資料館において、勾玉などの古代の道具作りを実施するとともに、資料館周辺の古墳群を巡る古墳ガイドなどの演目も実施いたします。その他、伝統文化入門講座を年3回、落語会の房総座を年3回、国重要指定文化財の旧学習院初等科聖堂を会場とした歴史の里の音楽会や、北総江戸めぐりなどを当財団の自主事業として実施させていただきます。

【高橋議長】

体験講座に参加するには、急に行ってできるものなのですか、それともある程度予約が必要なものなのでしょうか。

【房総のむら】

両方ございます。予約なしでも参加できるものを実施していますが、職員の準備が必要な複雑なものは、あらかじめ予約のうえ、実施させていただくというかたちになります。

【高橋議長】

WEB等できちんと確認していく必要があるということですね。敷地内には樹木もたくさんありますが、それを生かした企画などはあるのでしょうか。

【房総のむら】

無料エリアを含めると東京ディズニーランドとほぼ同じ面積があり、そこに多くの古墳群が存在しています。栄町の岩屋古墳という大きな古墳の見学イベントや、隣接した旧学習院の初等科聖堂での文化行事などと、併せて見ていただくかたちで連携を図っています。敷地内の建物や遺跡を活用した行事なども行っています。

【湯浅委員】

房総のむら房総風土記の丘資料館のパフレットはよくできていて、学術的価値も高く、たいへん感銘を受けました。体験学習と古代の古墳という両方のリソースがあるのは、非常にユニークだと思います。以前コロナ前に大学の歴史学科として120人ほど連れておじゃました際に、どちらもよく見せていただきました。実際に見学者が団体で来られるケースは多くあるのでしょうか。また、そういった団体の誘致といった取り組み等がありましたら教えてください。

【房総のむら】

一番多いのは、小学生団体です。小学校3年生の授業のなかで昔のくらしという単元があり、その授業の一環として訪れるのが一番多いのですが、自治会から生涯学習の一環でとか、海外から日本の生活を見てみたいのなどでといったこともございます。高校生・大学生の団体はなかなか来られず、若い方は、隣接する栄町のコスプレの館で昔の町人のかっこや忍者のかっこをして写真を撮るのに写真映えするとのことで利用される方が多いのが現状です。

【高橋議長】

それでは議題1について、全体的に何かご質問等ありますでしょうか。

【門協委員】

関宿城博物館のことでひとつお聞きしてよろしいでしょうか。先ほど見せていただいた河童の絵ですとか、景色の絵ですとか、とても面白い、見てみたいと思うのですが、これらの絵が赤松宗旦のものですよね。

【関宿城博物館】

赤松宗旦が本を作るために江戸に職人を探しに行き、一流の絵師に頼んで描いてもらったものが多いので、利根川図志の絵はとても見ごたえがあります。

【門協委員】

私は本当に素人なので、さきほどこの展示はすごい価値があるものとおっしゃっていましたが、最初に資料をいただいたときに「利根川図志」の意味がわかりませんでした。よくよく説明を読めば「あ、そういうことなんだ」と思うのですが、子供向けワークショップも企画されているし、もっとこの企画展の名前がわかりやすかったら、この利根川図志を知らない人なども来てくれるのではないかと思います。今からタイトルを変えることはできないと思いますが、何かサブタイトルをつけるなどして、子どもたちや利根川流域に住んでいる人たちなど裾野を広げて、もう少し興味をもってもらえる工夫ができないかと思いました。

(2)：千葉県立美術館と中央博物館の実施計画策定の進捗状況について

【高橋議長】

議題2の「千葉県立美術館と中央博物館の実施計画策定の進捗状況について」に入ります。美術館と中央博物館からそれぞれご説明いただき、いろいろとディスカッションさせていただきたいと思います。それではまず美術館からお願いいたします。

【美術館】

「千葉県立美術館活性化基本構想に基づく第1期実施計画骨子案」をご覧ください。1ページ目は活性化基本構想について3月に皆様にお示ししたもので、我々の現状にとって憲法のようなものになります。これをもとに具体的なものをきめていこうというのが、実施計画骨子案になります。この基本構想を県民にお示しした際には、たちどころに批判がございました。ただ、「具体的なものがなにもない」「何をしてくれるのか」というご批判は予想通りのもので、この1年で具体的に何を行うかを改めてお約束するために様々なディスカッションをしているのが、現在の我々の作業となります。資料に活動方針Ⅰ～Ⅳというものがございます。たとえば活動方針Ⅰ「新たな出会いと発見の場に」をキーワードとしてやっていきますということをお約束しました。これを具体的にどうするのかということは、最終的に今年度末に、わかりやすいかたちでお示しすることが今年のゴールとなります。資料はこの活動方針Ⅰにぶら下がって中項目が提示される構造になっています。「世界の潮流をとらえたアートを活用し、おどろきと感動が得られる千葉発のアートシーンを創出します」というのが中項目です。そのなかに具体的に考えていることを示しています。たとえば「国内外のアーティストとの交流の場を創出します」とあります。すでに開始している活動の一つなのですが、今年6月2日に知事がデュッセルドルフを訪れ、デュッセルドルフ市長と包括的な文化交流の契約を結びました。そのひとつの柱がアーティストをお互い1年ごとに送りあって交流を結ぶことでした。今年1年目は千葉から花澤武夫さんという画家がデュッセルドルフに渡って作品作りを行っており、来年はデュッセルドルフからアーティストをお招きします。活動方針Ⅰの中項目のなかの具体的なものの一つとなります。現状では、まだ

はっきりとしたものをお示しする段階ではないのですが、こうしたことを考えているということをご報告させていただきました。ぜひ全体をお目通しいただき、いろいろなご意見を賜りたいと思います。またこの場以外でも広く県民のご意見をうかがえる場を利用したいと考えております。広く議論を起こしながら、深く議論を積み重ねながら、進めていきたいと思っております。中間報告的なものとはなりますが、ご意見・ご質問があれば、よろしく願いいたします。

【高橋議長】

アーティスト・イン・レジデンスの話しを最近よく聞くようになりました。今年すでに向こうへ行かれているとのことですが、アーティストを選考される際の選考の基準のようなものは何でしょうか。

【美術館】

これからの日本あるいは千葉のアートシーンに貢献しているような方を選んでいきます。広く推薦を賜り、選考委員会をつくり5人の委員で協議して、推薦された候補者から3名に絞ります。こちらで選んだ3名をデュッセルドルフ側に提示して、デュッセルドルフ側が資料を見て1名を選ぶという流れです。

【高橋議長】

千葉県とデュッセルドルフが協力して企画が進んでいくということですね。

【美術館】

そうです。公になったのは6月に知事の調印以降ですが、実際は昨年の春から着々と進めてまいりました。

【細矢委員】

ご提示いただいた資料について、それぞれの中項目と小項目同士の関係が示されているのが大きな特徴と思いました。ここに出てくる項目は、単に羅列で直線的に並んでいるのではなく、お互いに関連していることが、かなり重要なことなのではないかと思っております。項目はそれほど多くはないので、たとえば十二角形のようなかたちで図示して、それぞれの関係や特に強く関係していることなどを、矢印や線の太さを使って示すと、方針がビジュアルとして目に見えてわかりやすくなるのではないのでしょうか。

【美術館】

貴重なご意見ありがとうございます。平面的ではなく、むしろ立体モデルのようなかたちで示せればと思っております。

【鴻野委員】

活動方針Ⅳの「サステイナブルな美術館に」についてですが、障害をおもちの方や高齢の方などが挙げられていますが、そこに在日の外国人の方たちが入ってくる可能性というのはあるのでしょうか。神奈川県いくつかの美術館などでは、連携して外国人と日本人の美術を通じたコミュニケーションを行っています。千葉ではそのような取り組みはどの程度必要なのかお伺いしたいと思います。

【美術館】

私は昨年4月に県立美術館に入り、館内に英語の表示がないことに驚きました。今年度は予算をとって、まずはキャプションをバイリンガルにすることになったのですが、これが実にハードルが高い。これまで英語にしたことがない日本語を英語にするのはかなりの困難な作業となります。そうしたことも含め、多様な方々に美術館を利用していただくための工夫について、ぜひいろいろ伺いたいと思います。どんな方でも利用されるのに、100点満点は無理かもしれませんが、100点を目指す姿勢は絶対に外せません。様々な方々の多様な利用に対応できるような仕組みを、一つ一つそろえていきたいと思っています。

【綱島委員】

理念とその目指す姿というのはわかったのですが、やはりわかりやすさというか、もう少しシンプルな感じがよいと思います。美術館や博物館というと何か崇高な感じがしてしまうのですが、一般の方が見てわかりやすいという部分を、もう少し意識していただくと良いと思います。やはり、たくさんの方に来ていただいて、見ていただくというのが、美術館であり、博物館であると思いますので、わかりやすさ・シンプルさというところは、意識してほしいと思いました。

【美術館】

その部分は、我々も注力している部分です。シンプルに、関係がわかりやすくというのは、まさにおっしゃる通りで、本日の資料についても、かなりそぎ落としのものなのですが、まだ少しそぎ落とし方が足りていないと自覚しております。

【高橋議長】

それでは、次に中央博物館、お願いいたします。

【中央博物館】

「千葉県立中央博物館みらい計画」のなかに、取り組みの方針に沿った事業展開として今後10年間の事業展開が示されております。そして令和7年度から令和10年度までの今後

4年間の中央博物館として取り組むべき事業を具体的に取りまとめようとしているのが、実施計画です。今後4年間で取り組むべき事業を3つの博物館活動、「収集・保管」「調査・研究」「展示・教育普及」ごとに5つの「つながる」で整理して骨子案を作成しています。そのなかで特に重点的に取り組むべき事業として、核となる重点事業を5つのスローガンで構成しています。一つは「千葉の海の魅力を探り国内外に発信する」。2番目に「世界とのつながりを意識」、3番目に「他機関との連携強化」、4つ目として「デジタル技術の活用」、5つ目として「資料を未来に引き継ぐ」となっております。たとえば「千葉の海の魅力を探り国内外に発信」のなかに新規事業がありますが、これが国立歴史民俗博物館との共同研究や展示を行うというものになります。来年度から共同研究を開始し、令和9年度に企画展示あるいはシンポジウムを開催する予定です。「世界とのつながりを」のなかでも、やはり新規事業で歴博との共同研究を意識した展示、あるいは研究を行おうとしております。「他機関との連携強化」についても、歴博との競合、共同研究を意識したものになっております。また併せて「災害発生時の資料救済の組織づくり」についてもこれを進めていかなければならないと考えております。「デジタル技術の活用」のなかに新規として貴重書閲覧システムがありますが、当館で貴重な資料を収蔵しておりますので、それらの書籍をデジタル化して、ウェブ上で公開する閲覧システムの構築をゆくゆくは行いたいと考えております。再掲になりますが、「災害発生時の資料救済の組織づくり」として、組織を含めて「資料を未来に引き継ぐ」よう進んでいきたいと思っております。最後に第3章は、3つの博物館活動を5つのつながりで整理したものです。重点事業の項目のなかに入っている事業と、これまでも行ってきた事業をそれぞれ記しています。これらに対してのご意見を伺いながら、これらに肉付けしていきながら、実施計画として案を作成していきたいと思っております。

【綱島委員】

説明のあった災害発生時の資料救済の組織づくりに関してですが、現在かなりの激甚災害が多発しており、今後首都直下地震も含めて何が起こるか分からない状況のなかで、こうした資料を後世につないでいくということは大事なことだと思うのですが、少しスケジュール感として遅い印象を受けるのですが、こういった災害が続くなかで、緊急性を要するものだと思いますが。

【中央博物館】

おっしゃる通りでございます。

【高橋議長】

災害対応や、その組織づくりといったことは、中央博物館だけの問題ではなく、千葉県内にいろいろな博物館があるので、そういったところとの連携も必要になってくると思うのですが、どのように取り組んでいかれるご予定でしょうか。

【中央博物館】

中央博物館は千葉県内の博物館の中心となって、連携しながら進めて参ります。また資料を管理してゆく技術に関わる人材の育成にも配慮したいと考えています。

【高橋議長】

人材というのは、たとえば修復の技能をもった人を育てていく、といった意味でしょうか。

【中央博物館】

資料の価値、あるいは資料の保存の仕方など、若い職員は経験が浅いので、育成していかなければならないと考えています。

【細矢委員】

科博でもやはり人材というところは、かなり悩ましいところとっております。千葉の海の魅力を探るというテーマに、千葉の海藻文化というものもあり、とてもユニークな視点であると思います。それから海の幸、深海生物といった自然誌系のものは、当然資料の取り扱いもさることながら、資料の収集、それがどういうものであるかという研究がとても大事ではないかと思えます。しっかりした展示を行うには、しっかりした研究が必要であると思うので、研究の部分にも十分な時間をさけるようにご配慮いただけるとありがたいと思えます。

【湯浅委員】

重点研究の「東京湾の変遷」という部分は、中央博物館単独の取り組みだと思えますが、自然誌系と人文系の連携という点で、たいへん興味深いと思えます。おそらくは自然系、考古学系でいうと何万年前の古東京湾の地形変遷の問題から、歴史的には東京湾だけでは済まない世界、たとえば利根川の問題であったりと、歴史学のなかで内湖とか内海というのが非常に重視されており、いろいろつながっていくという話が、私の専門の中世史でもかなり注目されています。ひとつ要望として、東京湾をもっと広くとらえ、レンジを広げて、河川世界や霞ヶ浦・香取の海なども意識していただきたいと思えます。そのような意味で、どのような内容になるのか、少し教えていただけますでしょうか。

【中央博物館】

東京湾の変遷は、それこそ地学的な古東京湾のことから、埋め立て前の過去の写真などを中心に現在の風景と対比することをまず前提として、展示の準備を進めていこうと考えております。

【湯浅委員】

少しだけ内海世界を意識していただければというのが、私の意見です。

【高橋議長】

ちょうどお時間となりましたので、議題2は以上で終わらせていただきます。それではすべての議事が終了いたしましたので、事務局に進行をお返します。